

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871500025
法人名	(有)やわらぎ
事業所名	グループホームやわらぎ川内
所在地	愛媛県東温市南方1787-2
自己評価作成日	平成28年7月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

広い敷地があり、庭にて花を育てたり、畑に出来たじゃがいも掘りを行うことができる。屋内の共有スペースも広々としており、利用者全員が集まってのお茶会やレクリエーションとしてボーリング大会を行うことができる。また庭先にいる犬や室内で飼っているインコなど、動物とふれあう機会もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者が働きかけ、昨年、町内会長が町内会議の議事録を持参してくれるようになり、地域の情報を共有しやすくなっている。隣接の他介護施設やカトリック教会とは相互交流があり、教会で行われる結婚式を見る機会もある。又、週に1度の「歌の会」では、ボランティアのリコーダーに合わせて、利用者が独唱したりハーモニカを演奏する等、楽しく交流している。コーラス、手話等の地域ボランティアも積極的に受け入れている。地域の高校の介護実習生を受け入れた際には、運営推進会議に参加して感想を述べてもらった。近所のお堂まで散歩したり、喫茶店に出かけられるよう支援している。家族と散歩したり、温泉に出かけたりする利用者もある。利用者の希望に沿って、そうめん流しやサーカス、カラオケ等にも出かけている。6月は、庭のジャガイモ掘り、11月はサツマイモ掘りを楽しめるよう支援している。庭にテントを張って、桜やコスモスを見ながら手作り弁当を楽しめるような支援も行っている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームやわらぎ川内

(ユニット名) ぽっかぽかの家(A棟)

記入者(管理者)

氏名 玉井 友基

評価完了日 28年 7月 8日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 3本柱の理念を作成し、事業所内の目につく場所に掲示し、共有したうえで日々の業務を行いより良い介護ができるよう努力している。	
			(外部評価) 法人理念を事業所の理念としており、共用空間に分かりやすく掲示している。1年ごとに目標を設定し、今年度は「一致団結」を目標として取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の方のお宅で育てている藤の花などを見せて頂いたり、秋祭りのお神輿がホームに来て利用者さんと接して下さったり、隣の教会のイベントごとに参加させて頂いている。	
			(外部評価) 管理者が働きかけ、昨年、町内会長が町内会議の議事録を持参してくれるようになり、地域の情報を共有しやすくなっている。隣接の他介護施設やカトリック教会とは相互交流があり、教会で行われる結婚式を見る機会もある。又、週に1度の「歌の会」では、ボランティアのリコーダーに合わせて、利用者が独唱したりハーモニカを演奏する等、楽しく交流している。コーラス、手話等の地域ボランティアも積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 高齢で認知のある方が迷ってホームに入って来られたことがあり、職員が気づき対応、ご自宅までお連れしたことがある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に一度の頻度で運営推進会議を行い、利用者の家族の方や地域の方に参加して頂いている。状況報告を行ったうえで意見やアドバイスを頂いている。また、研修も行っておりサービス向上に取り組んでいるが、会議に参加しない職員への報告や情報伝達は不十分な部分があり、今後改善していく必要がある。</p> <p>(外部評価) 会議は、偶数月の第3水曜日に居間で行っており、利用者や家族、民生委員、地域の方、地域包括支援センターの職員が出席している。必ず、利用者にも発言の機会を設け、歌を披露したこともある。事業所の現状や取組み、利用者の健康状態を報告し、毎回テーマを設定して意見交換している。外部評価実施後には、評価結果書類を見てもらいながら報告したり、テーマによっては、外部講師を招き研修を行っている。</p>	<p>現在、やや出席メンバーの固定化がみられるため、今後、利用者の暮らしを支えてくれる方達の参加を働きかけて、さらなるサービスの質の向上につながる会議に取り組んでほしい。管理者は「市の担当者の参加依頼を進めたい」と話していた。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護認定更新時や、市役所から書類が届いた場合は対応するが、密に連絡をとっていない。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターの依頼で、地域の「サロン」活動の一環として施設見学者を受け入れている。地域の中学生在が毎年訪問してくれ、利用者とは交流している。又、地域の高校の介護実習生を受け入れた際には、運営推進会議に参加して感想を述べてもらった。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員同士で話し合い、注意し合いながら身体拘束をしない介護を基本としてケアに取り組んでいる。ただしベッドから飛び降りるなど怪我の危険性がある行為を行われる利用者のみ、キーパーソンの方に説明をさせて頂き同意を得たうえでベッド柵の使用をさせて頂いている。また、夜間は職員一人体制のため、安全及び防犯を理由に玄関の施錠を行っているが日中は解放している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束の研修は、法人内研修にて毎年実施している。現在、転倒予防等のため、家族とも相談しながら、夜間のみベッドの4点柵を使用しているケースが4例ある。ベッド柵使用状況については、個別の介護記録に毎日記載している。</p>	<p>今後も、利用者の自由で安全な暮らしの支援に向けてチームで話し合いながら、身体拘束をしないケアに工夫してほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の為の委員会を発足し、研修を実施して学ぶ機会を作っている。また普段の現場でも職員同士互いに注意し合い、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を行い学ぶ機会を設けることはできているが、全員が学べているわけではない。現状として理解は不十分である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明を行うようにしている。また、何かあればその都度話を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に一度、運営推進会議に参加して頂く事で意見、要望を外部者に表せる機会を設けている。また、面会時や電話による連絡を行い、こちらのケアの内容として変更がある場合も家族に説明し、意見をいただいた場合は反映できるようにしている。 (外部評価) 毎月、担当職員が手紙で、利用者の健康状態や暮らしぶりを家族に報告している。海外在住の家族にはメールで伝えている。A4用紙両面の事業所だよりは、年1回発行している。昨年の事業所の夏祭りには5名、餅つき大会には2名の家族参加があった。毎朝、出勤前に食事介助に来る家族や、週に数回昼食介助に来る家族もある。	食事の内容や外出、日々の過ごし方等、家族が知りたい情報を探り、具体的に情報発信できるよう工夫してほしい。管理者は今後、「家族の意見や要望を集約できるように家族アンケートを実施したい」と話していた。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 連絡ノートや日々の申し送りを通して意見や提案を共有している他、月に1回の職員会議で意見や提案を発表する機会はある。 ただし新しい取り組みなどについては躊躇することもあり反映し切れてはいない。	
			(外部評価) 今回の自己評価は、全職員で取り組んだ。毎月の会議はユニット毎に行い、合同行事等の際には、両ユニットの担当職員で話し合っている。法人内研修は、年間計画に沿って、系列事業所ごとに持ち回りで担当している。管理者は「今後さらに、職員全員が同じ方向を目指していけるよう、意識統一を図り、さらなるチームワークづくりに取り組んでいきたい」と話していた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 労働時間は守られており、勤務も可能な限り希望が通るよう調整を行っている。また、職員の良い行いをメッセージカードに記入し個々に渡すようにしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内では研修委員を決め、年間の研修計画を立てて学ぶ機会を設けている。法人外の研修についても案内や上司からの打診がある。特に法人内の研修については勤務に支障が出ないように調整を行い参加しやすい環境を作るよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 介護ネットを介して地域の同業者と交流する機会が設けられており、質の向上をさせる取り組みを行っている。また、法人内での研修などで職員同士が交流する機会がある。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と目線をあわせ話を伺い、本人の心配事や要望を細かくお聞きして少しでも安心できる環境を確保できるように努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) キーパーソンの方にお話を聞き、相談しながら関係づくりを進めていくよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所当初ははっきりとしたものは立案できないが、入所後の様子など職員間で報告し合い、その人に合ったサービスの提供が行えるように努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の残存能力を生かしていただけるようにともに作業を行ったり、見守りを行っている。 親しくなりすぎて利用者と職員としての線引きがあいまいになっている部分があり、そうならないよう気を付けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 小さなことでも家族への連絡を行い、意見をお聞きしたり、相談を行い、必要があれば協力していただいている。 面会に来られたときは話をするように心がけている。また面会に来られない家族の方にも月に1度近況報告の手紙を送り、少しでも状況が分かるように努力している	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) こちらからなじみの人や場へ関係をつなごうという支援は積極的にできてはいない。玄関は夜勤者一人体制の時間以外解放されており、面会はいつでも行えるようにしている。 (外部評価) 自宅の近所の方の訪問時には、居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。利用者が家族に宛てて少しずつ書いた手紙を、1ヶ月ごとにまとめ、郵送できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 全員で行うレクリエーションやお茶会を企画して交流をもつていただける機会を作っている。 必要に応じて職員が間に入り、利用者同士がよい関係をつくれるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 顔を合わせる機会があれば話をし、関係性を大切にすることは努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の会話の中で希望や要望を把握しようとしている。また意思疎通が難しい場合も利用者に負担とならないことを心がけ検討している。	
			(外部評価) アセスメントシートは1年ごとに見直し、思いや意向の把握に取り組んでいる。調査訪問時、「今日は天気がいいから、散歩に行きたい」という利用者があり、午後の散歩に付き添って出かけていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人、およびキーパーソンの方々からこれまでの暮らしや経験の話を伺っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の過ごし方を把握し、変化があった場合すぐに気が付けるように努力している。 個人記録や連絡ノートを活用し、職員間でも普段との様子の違いなどを報告しあっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月行うスタッフ会にてモニタリングや介護計画を行っているが、介護プランについてはもう少し話し合いが必要。また、普段から意見やアイデアを言い合い、相談をして介護計画を作成している。家族やキーパーソンの方にも相談させて頂き、必要に応じて協力もして頂いている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、利用者や家族の意見、要望をもとに、職員で検討して作成している。日々の個別記録に計画内容を記載し、計画に沿った支援ができるよう工夫している。1ヶ月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月ごとの見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 毎日の介護記録や申し送りを通じて情報の共有をするように努力しているが抜けていることもありさらなる努力が必要である。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 必要な対応に変化があった場合、申し送りや連絡ノート等で共有し柔軟な支援をするよう努めているが既存のサービスにとらわれている部分もある。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) お隣の教会のイベントや秋祭りなどの地域の行事に参加させて頂き暮らしを楽しむことができるよう支援に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医とは別に、家族や本人が希望される場合はそちらで医療を受けられるようにしている。利用者の方の変化に気を付け、異変があれば協力医に連絡を行い、適切な医療が受けられるよう努めている。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医を家族が付き添い受診支援する場合は、家族に1ヶ月間の個別記録を渡して、医師との連携を図れるよう支援している。訪問歯科を利用できるようになっている。利用者1名のみ睡眠剤を服用しており、医師と相談しながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員はいないが、看護師経験のある職員に相談、報告を行ったうえで対応を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には面会にいき、現状の把握や情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族や医師と話し合いを行い、説明および、方針の決定をしている。	
			(外部評価) 入居時に、「重度化した場合における対応に係る指針」を提示し、家族に説明している。多くの家族は「事業所での看取り」を希望している。利用者によっては、日々の会話の中で「最期までここにおりたい」と意思表示する方もある。昨年から今年にかけては、2名の利用者の看取りを支援した。看護師資格を持つ職員が中心となって、最期まで口から食べられるよう支援したケースがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変などの対応は医師、看護師の指示を受けて対応している 定期的な訓練は行えておらず、実践力にはやや疑問がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災時などの防災訓練は行っているが、すべての災害に対して全職員が対応しきれぬかは疑問である。 防災に向けての取り組みを現在積極的に行っているため、これから地域との協力体制も整えていかなければならない。	さらに、隣接の他施設と連携した訓練の実施や地域の防災訓練への参加、又、運営推進会議で話し合う等、地域との協力体制の整備に取り組んでほしい。
			(外部評価) 年2回、避難訓練を実施している。地震想定で実施した際には、手作りの防災頭巾を利用者に着用することを忘れてしまったことがあり、落ち着いて避難することの重要性を学んだ。現在、非常用持出袋1個をスタッフルームに設置しているが、今後、別の場所にもう1個設置する予定がある。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 命令調や友人と接するような言葉を選ばないよう気を付けているができていない部分もある。	利用者への言葉かけや対応については、ケアの質にも大きくかわることでもあることを踏まえ、今後さらに、職員間で「利用者にとってどうか」という視点から話し合い、共通理解を深めながら取り組みを重ねてほしい。
			(外部評価) 利用者に対して、馴れ馴れしい態度や言葉かけがみられた際には、その都度管理者が指導している。利用者個々に、庭の手入れ、読書、「お茶会」の終わりの一本締め、楽器演奏等、楽しみごとや役割を持てるよう取り組んでいる。中学生との交流をきっかけに、塗り絵が得意なことが分かり支援しているケースがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望や思いは普段の様子や会話の中からくみ取れるよう努めている。 自己決定は危険な行為などについては止めるなど事業所側の判断で決定を行う部分がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 意思表示ができる方には希望に沿って支援を行うようにしているが職員間での食い違いなどがある。食事の時間なども体調面などにより多少前後させて利用者のペースに合わせてようと努めている部分もあるが、勤務状況によって利用者にとっていただくことになるなど職員側の都合によってペースを決定される部分もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪やひげそり、爪切りなど身だしなみに関することは声掛けを行っている 季節に合わせた服装なども進めるが本人の希望がある場合そちらを優先している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付け、簡単な手伝いなどできることを手伝っていただいている。 季節のものを提供する、誕生日は利用者の希望に沿うものを提供するなどの支援をおこなっている。	
			(外部評価) 「野菜中心の食事づくり」に取り組んでおり、ユニット毎に献立を立てて食事を作っている。職員も一緒に、同じものを食べながら支援している。調査訪問時には、家族が手作りの桃のコンポートが添えられていた。食器洗いや食器拭きをしている利用者がみられた。誕生日には、利用者の希望に沿って、刺身や焼き肉、すきやき等で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の状態や能力に合わせて ・食事形態をきざみに変更する。 ・汁物の量を増やすことにより水分量の確保をする。 ・好みに合う飲み物を用意する。 などの支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、声掛けや介助による口腔ケアに努めている うがいしかできない方にも可能な範囲でケアをしていただくよう努めているが状況によりケアが不十分な方もいらっしゃる。 月2回来られる訪問歯科医を利用している方もいらっしゃる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が増えるように声掛けや誘導による支援を行っている。 (外部評価) 共用トイレを使用することが苦痛な利用者には、居室にポータブルトイレを設置しており、排泄習慣が落ち着いた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 果物、乳製品の摂取。 漢方やマグミツとの服用。 水分量の変更や声掛けによる運動。 などを行ってはいるが排便困難となっている方もおり、下剤使用による排便が増えている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 3日に一度を基本のペースとしているが希望があればそれにあわせ、無理強いなどが起きないように努めている。イベントなどがあり時間帯を早めたい場合は説明を行い、同意を得るように努めている。 (外部評価) 3日に1回、午後に入浴できるよう支援している。重度の利用者も湯船に浸かることができるよう、職員2人で介助して支援を行っている。入浴を拒む利用者には、脱衣所の温度を好みの温度に調節したり、言葉かけに工夫したりして入浴につなげている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 心身状態や本人の希望にあわせ、休息をとっていただくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬錠説明などを読み、副作用や用法用量についての理解に努めているが、全員がすべてを把握しきっているとは言えない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別に外出支援を行ったり、庭木の手入れができる方が手入れをするために必要なものを準備するなどの支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 庭先やテラスへ花を観に出たり、見守りのもとで散歩へ出られるよう努めている。普段いけないようなカラオケなどは家族の方からの同意、あるいは協力を得て個別に支援を行っている。	
			(外部評価) 近所のお堂まで散歩したり、喫茶店に出かけられるよう支援している。家族と散歩したり、温泉に出かけたりする利用者もある。利用者の希望に沿って、そうめん流しやサーカス、カラオケ等にも出かけている。6月は、庭のジャガイモ掘り、11月はサツマイモ掘りを楽しめるよう支援している。庭にテントを張って、桜やコスモスを見ながら手作り弁当を楽しめるような支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭は基本的に職員側で管理させていただき、希望や必要に応じてそこから支払をする形をとっている。 個人的に財布を持っている利用者が1名いらっしゃるがほとんど使うことはなく、支払いを自分の財布からしたいと希望がある場合のみそちらのお金から支払をしていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人自ら電話や手紙のやりとりを行うという支援は行っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 広々としたフロアに季節の花や行事を模した折り紙を飾るなど居心地によく過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 各ユニットは、それぞれ独立した平屋で、天然木を使用している。玄関前には、松や庭石が配され、プランターに季節の花を植えている。庭先で犬を飼っており、利用者や近隣の子供たちがふれ合っている。吹き抜けの共用空間は、天窓から自然光が差し込んでいた。各所にソファが配置され、調査訪問時、テレビの前のソファで、ビーズ細工を楽しむ利用者がみられた。ユニットによっては、みなで応援の旗を持って高校野球を観戦することもある。小上がりの畳コーナーでインコを飼っており、コーナーに座り職員とおしゃべりしながら過ごしての方がいた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 広々としたフロアにソファや椅子など座れる場所を設置し思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。自分の定位置を決めている利用者もいらっしゃる。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 使い慣れた寝具や家具を持ち込んで使用していただいている。また壁に家族との写真などを貼っている。</p> <p>(外部評価) テレビやタンス等を持ち込んだり、仏壇には利用者が折った折り紙を飾っている方もあった。家族からプレゼントされた沢山のぬいぐるみを飾っている方もある。壁には、家族の写真や自作の塗り絵、カレンダー等が貼られていた。ハンガーラックに、洋服をかけている方もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) フロアや浴室、トイレに手すりがあり、本人が安全かつ自立できるように工夫されている。また各居室横にネームプレートを用意し、そこが誰の居室か一目でわかるようにしている。できることは見守りや声掛けを主軸に置いて自立した生活ができるように努めている。</p>	